

平成 27 年度

山梨市公営企業会計決算審査意見書

山梨市監査委員

梨監査第 8 - 2 号
平成 28 年 8 月 19 日

山梨市長 望 月 清 賢 様

山梨市監査委員 松 下 慶 磨
山梨市監査委員 大 竹 裕 子

平成 27 年度山梨市公営企業会計決算の審査意見書について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により、審査に付された平成 27 年度
山梨市公営企業会計の審査を行なったので、次のとおり意見書を提出します。

目 次

第1	審査の概要	1
1	審査の対象	1
2	審査の実施日	1
3	審査の手続き	1
第2	審査の結果	1
1	水道事業会計	2
(1)	業務実績	2
(2)	予算執行状況	3
(3)	損益計算書	5
(4)	財政状況	5
2	病院事業会計	6
(1)	業務実績	6
(2)	予算執行状況	6
(3)	損益計算書	7
(4)	財政状況	7
第3	審査意見	8
1	水道事業	8
2	病院事業	8

(注) 本書において、文中及び表中に表示する比率(%)は、原則として小数点以下第2位を四捨五入とした。従って、合計と内訳の計、差引などが一致しない場合がある。

平成27年度山梨市公営企業会計決算審査意見

第1 審査の概要

1 審査の対象

◇決算報告書

平成27年度山梨市水道事業決算報告書

平成27年度山梨市病院事業決算報告書

2 審査の実施日

平成28年7月21日 水道事業会計

平成28年7月22日 病院事業会計

3 審査の手続き

決算報告書及び付属書類などが、地方公営企業法及びその他関係法令に基づいて作成されているか否かについて審査し、かつ決算諸表の計数の正確性、また企業の経営成績及び財政状況の適正な表示がなされているかについても審査した。さらに、事業の執行が地方公営企業法で定められた経営の基本原則に沿って運営されているかなどについて審査を行なった。

第2 審査の結果

審査に付された水道事業会計及び病院事業会計の決算書並びに決算付属書類は、関係法令に準拠して作成されており、決算計数はいずれも関係諸帳簿と照合した結果、誤りのないものと認められた。また、財政状況及び経営成績についても、概ね適正であると認められた。

1 水道事業会計

(1) 業務実績

業務実績年度比較表

区 分	単位	平成27年度	平成26年度	比較増減	前年対比(%)
年度末給水人口	人	29,938	30,284	△ 346	98.9
年度末給水区域内人口	人	30,280	30,626	△ 346	98.9
普及率	%	98.90	98.90	0	100.0
年度末給水栓数	栓	11,977	11,881	96	100.8
配水量総数	m ³	4,469,110	4,421,101	48,009	101.1
配水量1日平均	m ³	12,211	12,113	98	100.8
配水量1日最大	m ³	14,914	15,161	△ 247	98.4
有収水量年間	m ³	3,189,157	3,242,895	△ 53,738	98.3
有収水量1日平均	m ³	8,714	8,885	△ 171	98.1
有収率	%	71.36	73.35	△ 1.99	97.3
給水戸数	戸	10,738	10,711	27	100.3
供給単価	円	156.56	156.78	△ 0.22	99.9
給水原価	円	185.74	188.52	△ 2.78	98.5

平成27年度の配水量総数は、4,469,110m³であり、1日当たりの平均配水量は12,211m³であった。これを前年度と比較すると、配水量総数は48,009m³、1日当たり平均配水量は98m³といずれも増加している。しかし、有収水量年間は53,738m³減少していることから、老朽管からの漏水が考えられる。

なお、年度末の給水戸数は10,738戸で、前年度と比べ27戸増加、給水人口は29,938人で、前年度に比べ346人減少している。当年度における1m³当たりの供給単価が156.56円に対し、給水原価は185.74円で差し引きが29.18円である。前年度に比べると、供給単価は0.22円、給水原価は2.78円の減である。電気料金の値下げと管理委託料の見直しによる減額の影響である。

(2) 予算執行状況

予算に対する決算状況

○ 収益的収支

収益的収入

(単位：円，%)

科目 \ 区分	予算現額	決算額	対予算現額 収入率
水道事業収益	667,094,000	656,493,633	98.4
営業収益	556,753,000	543,265,747	97.6
営業外収益	102,883,000	105,768,586	102.8
特別利益	7,458,000	7,459,300	100.0

収益的収入は、予算現額667,094,000円に対し、決算額は656,493,633円であった。
予算現額に対する収入率は、98.4%となっている。

収益的支出

(単位：円，%)

科目 \ 区分	予算現額	決算額	※翌年度 繰越額	不用額	執行率
水道事業費用	646,327,000	622,928,918	0	23,398,082	96.4
営業費用	589,532,000	571,456,460	0	18,075,540	96.9
営業外費用	55,035,000	51,364,457	0	3,670,543	93.3
特別損失	760,000	108,001	0	651,999	14.2
予備費	1,000,000	0	0	1,000,000	0.0

※ 翌年度繰越額は、地方公営企業法第26条第2項の規定による繰越額である。

収益的支出は、予算現額646,327,000円に対し、決算額は622,928,918円であった。
予算現額に対する収入率は、96.4%となっている。

○ 資本的収支

資本的収入

(単位：円，%)

科目 \ 区分	予現算額	決算額	対予算現額 収入率
資本的収入	137,021,000	141,170,423	103.0
企業債	90,000,000	90,000,000	100.0
負担金	6,642,000	7,484,400	112.7
補償工事負担金	39,900,000	43,206,420	108.3
固定資産売却代金	479,000	479,603	100.1

資本的収入は、予算現額137,021,000円に対し、決算額は141,170,423円である。予算現額に対する収入率は103.0%である。

資本的支出

(単位：円，%)

科目 \ 区分	予算現額	決算額	※翌年度 繰越額	不用額	執行率
資本的支出	348,013,000	337,654,928	0	10,358,072	97.0
建設改良費	247,969,000	237,611,894	0	10,357,106	95.8
企業債償還額	100,044,000	100,043,034	0	966	100.0

※ 翌年度繰越額は、地方公営企業法第26条第2項の規定による繰越額である。

資本的支出は、予算現額348,013,000円に対し、決算額は337,654,928円であった。執行率は97.0%である。

資本的収入が資本的支出額に不足する額196,484,505円は、損益勘定留保資金等で補てんされている。

建設改良費の主なものは、配水管管網整備事業8件、下水道工事に伴う水道施設補償工事18件。また、残存の石綿管から耐震管に布設替えする石綿管布設替工事を2件行うとともに、水源整備事業を1箇所行い、漏水防止と水圧の改善に取り組んだ。

企業債は、建設改良費に充てるため、新規に90,000,000円を発行している。期首未償還残額2,223,184,247円のうち100,043,034円を償還したが、新規発行債を加え、期末未償還残額は2,213,141,213円となっている。

(3) 損益計算書

損益計算書比較表

(単位：円，%)

区分		年度	平成27年度	平成26年度	対前年度比較	
					増減額	増減率
収益	水道事業収益		616,207,992	685,295,693	△ 69,087,701	89.9
	営業収益		503,350,585	515,556,046	△ 12,205,461	97.6
	営業外収益		105,398,107	101,478,154	3,919,953	103.9
	特別収益		7,459,300	68,261,493	△ 60,802,193	10.9
費用	水道事業費用		602,767,158	630,626,379	△ 27,859,221	95.6
	営業費用		554,211,998	573,684,864	△ 19,472,866	96.6
	営業外費用		48,455,157	49,969,848	△ 1,514,691	97.0
	特別損失		100,003	6,971,667	△ 6,871,664	1.4
当年度純利益			13,440,834	54,669,314	△ 41,228,480	24.6

損益計算は、水道事業収益616,207,992円に対して、水道事業費用は602,767,158円で、当年度純利益は13,440,834円であった。

(4) 財政状況

- ①資産 本年度末の資産合計は5,971,526,492円で、前年度に比べ3,665,733円(0.06%)と増加している。内訳は、固定資産が5,354,598,410円で前年度に比べ7,933,729円(0.1%)の増加、流動資産が616,928,082円で前年度に比べ4,267,996円(0.7%)の減少となっている。
- ②負債 負債総額は3,640,253,897円で、前年度に比べ9,775,101円(0.3%)減少している。内訳は、固定負債が2,113,996,293円で前年度に比べ36,419,706円(1.8%)増加しており、流動負債が108,758,324円で、前年度に比べ45,981,042円(29.7%)減少している。
- ③資本 資本総額は2,331,272,595円で、前年度に比べ13,440,834円(0.6%)増加している。内訳は、資本金が2,050,590,979円で、前年度に比べ661,452,567円(47.6%)増加、剰余金は280,681,616円で、前年度に比べ648,011,733円(69.8%)減少している。

2 病院事業会計

(1) 業務実績

平成17年4月に指定管理者制度を導入し病院事業会計を廃止したが、総務省の指導により平成20年度より再設置した会計である。

(2) 予算執行状況

予算に対する決算状況

○収益的収支

収益的収入

(単位：円，%)

科目 \ 区分	予算現額	決算額	対予算現額収入率
病院事業収益	5,065,000	4,507,549	89.0
医業収益	0	0	0.0
医業外収益	5,065,000	4,507,549	89.0

収益的収入は、予算現額5,065,000円に対し、決算額は4,507,549円であった。予算現額に対する収入率は89.0%となっている。

収益的支出

(単位：円，%)

科目 \ 区分	予算現額	決算額	※翌年度繰越額	不用額	執行率
病院事業費用	4,506,000	4,504,918	0	1,082	100.0
医業費用	4,430,000	4,428,980	0	1,020	100.0
医業外費用	76,000	75,938	0	62	99.9
予備費	0	0	0	0	0.0
特別損失	0	0	0	0	0.0

※ 翌年度繰越額は、地方公営企業法第26条第2項の規定による繰越額である。

収益的支出は、予算現額4,506,000円に対し、決算額は4,504,918円であった。執行率は100.0%となっている。

○資本的収支

資本的収入

(単位：円，%)

科目	区分	予現算額	決算額	対予算現額 収入率
資本的収入		463,000	463,000	100.0
他会計からの補助金		463,000	463,000	100.0
企業債		0	0	0.0

資本的収入は、予算現額463,000円に対し、決算額は463,000円であった。予算現額に対する収入率は100.0%である。

資本的支出

(単位：円，%)

科目	区分	予算現額	決算額	※翌年度 繰越額	不用額	執行率
資本的支出		735,000	734,238	0	762	99.9
企業債償還額		735,000	734,238	0	762	99.9

※翌年度繰越額は、地方公営企業法第26条第2項の規定による繰越額である。

資本的支出は、予算現額735,000円に対し、決算額は734,238円であった。執行率は99.9%である。

(3) 損益計算書

損益計算は、病院事業収益5,065,549円に対して、病院事業費用は4,504,918円で、当年度純利益は560,631円であった。

(4) 財政状況

- ①資産 本年度末の資産合計は423,912,881円であった。内訳は、固定資産が414,029,321円、流動資産が9,883,560円である。
- ②負債 負債総額は3,933,255円である。内訳は、固定負債が1,600,000円、流動負債が766,255円、繰延収益が1,567,000円である。
- ③資本 資本総額は419,979,626円である。内訳は、資本金が458,417,690円、欠損金が38,438,064円である。

3 審査意見

1 水道事業

基幹となる管路については、災害時に水が供給できるよう、可能な限り地震の揺れに強い管網整備を進められたい。収益については、人口の自然減に伴い、給水人口も減少していることに加え、節水機器の普及により水の使用量の減少傾向が続いている。

水道事業の大部分は固定費であることから、こうして水需要が減少したとしても運営コストは変わらず、今後も採算状況が厳しくなることが予想される。独立採算制を保つために、様々な工夫をして、効果的・効率的な企業経営を進められたい。

水道料金未収金については、公平性の観点から、継続的に訪問徴収や訪問催促又は、電話催促などを定期的に実施されたい。

2 病院事業

平成17年4月より指定管理者制度を導入しているため、今後も指定管理者である山梨厚生病院との連携のもと、十分な医療提供を図り、地域医療の拠点として住民サービスに努められたい。